様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　９ 日現在

機関番号：３２６４４
研究種目：若手研究
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ１３０１０

研究課題名（和文）非破壊光学調査による西洋近代絵画の技法解明と保存修復来歴の再構成

研究課題名（英文）Non-destructive optical investigation for the modern western painting and reconstruction of its history of conservation and restoration

研究代表者
田口　かおり（TAGUCHI, Kaori）

東海大学・教養学部・准教授

研究者番号：６０７３９９８６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：研究期間全体を通じて、国内では東京都現代美術館・豊田市美術館・ポーラ美術館・埼玉県立近代美術館館をはじめ多くの美術館と連携し、国外においてもテート・モダン・ワシントンナショナルギャラリー・大英博物館・ゴッホ美術館など諸機関からの助力を得て、主に近代絵画を中心に扱いながら美術作品の来歴の解明、技法研究および保存修復のケーススタディを積み重ねてきた。産学連携の研究拠点である東海大学イメージング研究センター及びマイクロ・ナノ研究開発センターにおいても多様な光学調査が実施でき、文化財調査用機器の制作改良についても、株式会社堀場インステックに依頼する形で共同研究を進めることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
研究機関を通じて、光学調査を通じ明らかになった美術作品の情報を広く社会一般に公開することで新たな議論の場を創出することを目指してきた。具体的な一成果として、完全解体が決定された建築物（神奈川県小田原市市民会館）の壁面に描画された西村保史郎制作作品(1962)の保存修復・技法研究・保存プロジェクトおよび全工程の情報公開を挙げる。失われた作品の「記憶」を保存し「記録」する本研究は、光学調査の手法を美術の普及のメソッドに組み込みながら、完全消失する作品のレスキューという緊急の課題に「展覧会」の形を持って取り組み、芸術文化と科学技術の振興と発展向上に貢献するものとして意義深いものであったといえよう。

研究成果の概要（英文）：Throughout the entire research period, in collaboration not only with institutions such as the Toyota Municipal Museum of Art and the Pola Museum of Art in Japan but museums and galleries overseasthe such as Tate Modern, the Washington National Gallery and the Van Gogh Museum, muktiple case studies have been accumulated mainly for modern paintings.
Especially in the study of the techniques of Vincent van Gogh's works, various optical surveys were carried out at the Imaging Research Centre and the Micro-Nano Research and Development Centre of Tokai University, which are research bases for industry-academia collaboration.
Research on the production and improvement of equipment for the investigation of cultural properties was also realized with the technical cooperation of HORIBA, Ltd.

研究分野：文化財保存修復学

キーワード：保存修復　アーカイブ　来歴調査　技法研究　光学調査

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

美術史における光学調査の採用は、芸術作品の真正性と作品鑑定をめぐる歴史的な討議と共に歩みを進めてきた。近現代以降、アメリカの科学者アラン・バロウスやベルギーの美術史家ポール・コールマンらが積極的に取り入れた光学調査は、作品の最下層から表層までのレイヤーを同一画面上で確認できる画期的な方法として一大センセーションを巻き起こした。ただし、作品の経年遍歴――制作時から現在までの時間において発生した出来事およびその結果生じた作品上の変化を解き明かす研究は、不十分なままに留め置かれてしまう。その背景には、19 世紀以降、ロベルト・ロンギからチェーザレ・ブランディ、アレッサンドロ・ コンティ、直近ではマルコ・チャッティへと連結するイタリアの保存修復学と美術批評の系譜においても指摘されているように、制作当時の状態の再現を目指し「オリジナル」再発見へと猛進する時代の熱意が少なからずあっただろう。しかし、現存する美術作品の殆どがいずれかの時点で修復され、何がしかの介入のために外観が変化している事実に鑑みるなら、美術史研究の更新と推進のためには、制作当時の外観や制作者の残した「真正な」痕跡の探求に留まらない、 作品の「生」のあらゆる過程を解明するための複合的な分析こそが必要不可欠である。

とはいえ、制作時から現在に至る作品の「生」の変遷（所蔵者の意向や修復によってもたらされた構造の変化、加筆の有無、洗浄による影響、経年に起因する顔料やワニスの変質など）をつまびらかにし、経年変化の諸相を総合的に分析解明し再構成すること、また、その情報の公開のあり方をめぐる検討は、国外美術館においてもまだ発展途上にある。なお、わが国における光学的手法を用いた美術館収蔵作品の調査は、美術館専属の科学者や修復家が常勤する施設の少なさという事情もあいまって、残念ながら西洋諸国よりもさらに遅延している状況にある。

２．研究の目的

以上の背景と問題点を踏まえた上で、研究代表者は、国内の美術館に収蔵されている西洋近代絵画を調査対象として取り上げ、綿密な光学調査のケース・スタディを通じて作品上の経年過程を明らかにし、さらにはその情報を公開することで当該作品や制作者をめぐる研究に寄与すること、ひいてはより広範な作品をめぐる光学調査研究への道筋をつくることを目的に、本課題を立ち上げた。研究の端緒として、明治大正期以降、次々と蒐集されながらも、本格的な光学調査が行われてこなかった近代絵画の研究に取り組むこととした。研究代表者が目指したのは、上記のようにこれまでの研究上では時に看過されてきた作品の経年遍歴に光をあて、物理的な構造上、通常光の下では確認が困難な情報を可視化し、作品を再評価するための一つの方法論を提示することである。ここで試みたのは、作者の筆跡や下絵のみを特権化することなく、作品内外に積み重ねられてきた時間や介入の痕跡をクロノロジカルに再構成することであった。この試みを通じて、西洋近代絵画の制作技法と修復歴を解明に貢献し、具体的にいくつかの作品群について制作から現代に至るまでの経年遍歴=タイムラインを再構成するとともに、美術史における作品解釈の方法論を更新することを目指した。この成果をもって、個々の作品に望ましい収蔵および展示、さらには保存修復の在り方を検証し、デジタルアーカイブを有益に活用する作品研究の場を創成し、わが国の文化財の保存環境の向上への具体的な貢献を目指すものとした。

３．研究の方法

作品の物理的な組成や保存状態の解明を目標に(a)制作技法の解明(b)修復歴の再構成(c)経

年変化の検証に力点を置き、国内では東京都現代美術館・豊田市美術館・ポーラ美術館・埼玉県立近代美術館館をはじめ多くの美術館と連携しながら美術作品の来歴の解明、技法研究および保存修復のケーススタディを積み重ねてきた。具体的には、作品構造の可視化のために研究代表者の所属機関が所有するエックス線/CT システム（3D 計測）を、顔料分析のための蛍光エックス線分析装置の改造を堀場テクノサービス（株）と、高精細な作品画像データを取得および比較検討できるギガピクセル・アートスキャナの活用を NHK エンタープライズ（株）と、ハイパースペクトラルカメラを活用した下層の検証をアイ・アール・システム（株）と協働実践した。結果は光学調査の豊富な実践例を有するゴッホ美術館(蘭)やヴォルフスブルク美術館(獨)にも提供し、技法検証の際に協力を得た。

４．研究成果

研究成果の蓄積によって、美術館、大学、アトリエが主催するシンポジウムや学術集会、国際機関より招聘を受け、講演や研究会へも多数参加する運びとなった。産学連携の研究拠点である東海大学イメージング研究センター及びマイクロ・ナノ研究開発センターにおいても多様な光学調査が実施でき、文化財調査用機材の制作改良についても、堀場テクノサービス（株）のお力添えを得て進めることができた。以下に主な成果を記す。

2019-20 年度

(1)美術作品の組成から作品の多様な「生」を再考する展覧会『タイムライン―時間に触れるためのいくつかの方法』開催(成果:岡田温司・田口かおりほか 『タイムライン―時間に触れるためのいくつかの方法』This and That 2021 年)。

(2)フィンセント・ファン・ゴッホ作品の光学調査を実施、成果を展覧会や論考で公開(成果:岩崎余帆子、木島俊介、田口かおりほか『印象派、記憶への旅』青幻社 2019 年)。

(3)高知県立美術館春季企画展「あつめてのこす」展にて、アンセルム・キーファー作品を光学調査(成果:田口かおり「高知県立美術館春季企画展「あつめてのこす」展における作品分析の手法」東京藝術大学 Art&Acience ラボ研究会 2020 年 12 月 1 日 発表報告等)

2021 年度

(1)レオナルド・ダ・ヴィンチ《ターヴォラ・ドーリア》構造と修復を検討、翻訳(成果: 『レオナルド・ダ・ヴィンチ失われた大壁画の記憶』チーロ・カステッリほか「木製支持体の保存と修復処置」田口かおり訳 東京美術 pp. 146-157)。

(2)アンリ・マティス作品の保存修復と描画層について光学調査を手がかりに検証し分析した（成果:「アンリ・マティス作品と保存修復」『ユリイカ』青土社 p. 112-120)。

(3)美術史学会全国大会シンポジウム招聘講演。美術史における保存修復的視座の重要性について検討(成果:田口かおり「作品を「再び花開かせる」ために―西洋の絵画修復における補彩の起源から中間色の展開まで」シンポジウム『修理と美術史学』2021 年 5 月 15 日)。

2022 年度

(1)ジョルジュ・ルオー《老兵》X 線 CT、赤外線、紫外線調査を実施。パナソニック汐留美術館展示室にて継続的に調査成果を公開(X 線 CT 撮影時映像、光学調査写真含む)

(2) フィンセント・ファン・ゴッホ《草地、背景に新しい教会とヤコブ教会》調査に着手し、光学調査により制作の順序や修復歴を再構成。次年度以降の調査土台とした。

(3)パブロ・ピカソの下層について国外研究者と検討、論文翻訳(成果:図録『ピカソ 青の時代を超えて』レイエス・ヒメネス「青の解読」等 田口かおり訳 青幻舎 pp. 28-36 等)。

(4) パナソニック汐留美術館に収蔵されるジョルジュ・ルオー作品について、ギガピクセルアート・スキャナを用いた作品の高精細画像撮影を施行。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計18件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　8件）

１．著者名 田口かおり	４．巻 4月号
２．論文標題 保存修復史の編み手たち―ピエトロ・エドワーズ（1744-1821）の一歩	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『影と沈黙』ART RESEARCH ONLINE	６．最初と最後の頁 オンライン
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 田口かおり	４．巻 第53巻 第5号
２．論文標題 アンリ・マティス作品と保存修復	５．発行年 2021年
３．雑誌名 ユリイカ	６．最初と最後の頁 p.112-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 田口かおり	４．巻 Vol. 3
２．論文標題 現代美術の保存修復の責務と倫理	５．発行年 2022年
３．雑誌名 京都芸術資源研究センター紀要　『COMPOST』	６．最初と最後の頁 p. 12-15 ほか
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 田口かおり	４．巻 738
２．論文標題 実用性の回復か、痕跡の保存か：18世紀西洋における近代保存修復学の萌芽	５．発行年 2020年
３．雑誌名 考古学ジャーナル	６．最初と最後の頁 36-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田口かおり	4．巻 なし
2．論文標題 新型コロナウイルス、もし美術館で感染者が出たら？ 保存・修復の専門家に対処法を聞く	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『美術手帖』美術手帖MAGAZINE	6．最初と最後の頁 オンライン
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 田口かおり	4．巻 1
2．論文標題 アンゼルム・キーファー 《アタノール》の内部を視る	5．発行年 2020年
3．雑誌名 収集→保存 あつめてのこす	6．最初と最後の頁 16-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 田口かおり	4．巻 635
2．論文標題 『裏』＿からピーター・ドイグを見ること	5．発行年 2021年
3．雑誌名 現代の眼	6．最初と最後の頁 36-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 田口かおり	4．巻 45
2．論文標題 橋をかける	5．発行年 2020年
3．雑誌名 芸術批評誌REAR「コロナ禍の文化と生活」	6．最初と最後の頁 69-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田口かおり	4．巻 2021年4月号
2．論文標題 カナレットの犬	5．発行年 2020年
3．雑誌名 ユリイカ 特集　鳥獣戯画の世界	6．最初と最後の頁 332
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田口かおり	4．巻 なし
2．論文標題 素材と時間、修復と制作のあいだで。田口かおり評 髙橋銑「二羽のウサギ / between two stools」展	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『美術手帖』美術手帖MAGAZINE	6．最初と最後の頁 オンライン
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 田口かおり	4．巻 2021年4月号
2．論文標題 「修復家の仕事 入門講座」など	5．発行年 2021年
3．雑誌名 美術手帖―アーカイヴの創造性	6．最初と最後の頁 98-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田口かおり	4．巻 Vol.8
2．論文標題 ラファエル・コラン《海辺にて》をめぐる一考察 ―光学調査による技法分析を中心に	5．発行年 2020年
3．雑誌名 福岡市美術館研究紀要	6．最初と最後の頁 25-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 田口かおり	4．巻 Vol.1
2．論文標題 勅使河原蒼風《樹獣》――近現代美術の保存修復と調査の一事例として	5．発行年 2020年
3．雑誌名 現代美術の保存と修復	6．最初と最後の頁 191-202
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田口かおり	4．巻 Vol.46
2．論文標題 タイムライン―時間に触れるためのいくつかの方法 解題	5．発行年 2019年
3．雑誌名 京都大学総合博物館ニューズレター	6．最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 田口かおり	4．巻 Vol.234
2．論文標題 ありとあらゆる作品は、変化し続けている――「タイムライン ―時間に触れるためのいくつかの方法」展解題	5．発行年 2019年
3．雑誌名 国立国際美術館ニュース	6．最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 田口かおり	4．巻 467
2．論文標題 保存修復の歴史的展開―ワックス裏打ちをめぐる問題を中心に	5．発行年 2022年
3．雑誌名 美術の窓	6．最初と最後の頁 60-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田口かおり	4．巻 51
2．論文標題 美術作品の保存修復における光学調査の役割と展望	5．発行年 2023年
3．雑誌名 レーザー研究	6．最初と最後の頁 376-383
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田口かおり	4．巻 91
2．論文標題 1966年アルノ川大洪水(alluvione)における美術作品レスキューと保存修復をめぐる一考察	5．発行年 2023年
3．雑誌名 史學	6．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計25件（うち招待講演　17件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 田口かおり
2．発表標題 「作品を「再び花開かせる」ためにー西洋の絵画修復における補彩の起源から中間色の展開まで」
3．学会等名 第 74 回美術史学会全国大会シンポジウム『修理と美術史学残すもの、除くもの、補うもの』（招待講演）
4．発表年 2021年

1．発表者名 田口かおり
2．発表標題 現代美術の保存と修復
3．学会等名 シンポジウム　現代ARTの保存修復　教育×実践（招待講演）
4．発表年 2021年

１．発表者名 Kaori Taguchi
２．発表標題 “Reinvestigating Japanese Art: History, Technique and Materials from Ancient to Contemporary”
３．学会等名 International Symposium : Fostering Bridge Personnel between Russia and Japan on Life Care for Economic Development in Russia Far East（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 田口かおり
２．発表標題 大学美術館における展示の可能性と保存修復
３．学会等名 地方大学における総合的な地域資料の展示公開モデルの構築(基盤研究B 代表者 五十嵐太郎）科研主催研究会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 桝田倫広、木奥恵三、田口かおり
２．発表標題 作品を守ること／展覧会を記録すること
３．学会等名 休館中に考える《展覧会の守り方》とピーター・ドイグ展
４．発表年 2020年

１．発表者名 田口かおり
２．発表標題 文化財の保存と修復
３．学会等名 一橋大学 博物館資料保存論招聘講演（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 田口かおり
２．発表標題 作品を残すこと、保存修復の理論と実践：北原悌二郎作品の事例を前に
３．学会等名 福岡教育大学主催ワークショップ
４．発表年 2020年

１．発表者名 田口かおり
２．発表標題 新型コロナウィルス時代の一現場：美術作品の点検/修復の現場における変化と展開
３．学会等名 文化資源学会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 田口かおり
２．発表標題 美術作品保存修復における化学の役割と展望
３．学会等名 東海大学総合医学研究所/マイクロ・ナノ研究開発センター共同開催第十六回研修会
４．発表年 2020年

１．発表者名 田口かおり
２．発表標題 高知県立美術館春季企画展　あつめてのこす展における作品分析の手法
３．学会等名 東京芸術大学Art&Acienceラボ研究会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 田口かおり、長谷川新、加藤巧、土方大、清水泰介、増田千恵、 熊谷篤史
２．発表標題 タイムライン ―時間に触れるためのいくつかの方法
３．学会等名 『タイムライン ―時間に触れるためのいくつかの方法』出版記念講演会「綴じて、開く。」
４．発表年 2020年

１．発表者名 高島美穂，田口かおり，森直義
２．発表標題 クロード・モネ作《睡蓮、柳の反映》における材料・技法についての科学的調査
３．学会等名 文化財保存修復学会第42回大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 田口かおり
２．発表標題 タイムライン展の時間軸ーー現在進行形の保存、記録の更新、予防的修復
３．学会等名 記念シンポジウム「タイムライン展を振り返るーー現代美術の保存・修復・記録をめぐって
４．発表年 2019年

１．発表者名 田口かおり
２．発表標題 保存修復をめぐる論理的・実践的研究ーー美術作品の保存修復と光学調査の射程
３．学会等名 東京都市大学ー東海大学ジョイントシンポジウム
４．発表年 2019年

１．発表者名 田口かおり
２．発表標題 ものを残すための手立てーー絵画、現代美術の保存修復をめぐって
３．学会等名 COM関連トークイベント＆GURAオープンスタジオ（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 田口かおり
２．発表標題 現代美術の保存修復 技法と思想
３．学会等名 記念シンポジウム 作りながら保存(アーカイヴ）すること タイムライン展の事例から（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 田口かおり
２．発表標題 保存修復の倫理（エシクス）現代美術の「生」をめぐって
３．学会等名 シンポジウム「持続可能な彫刻 アートが拓くユニバーサルな可能性（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 田口かおり
２．発表標題 ファン・ゴッホ作品の再構成―来歴と色
３．学会等名 第９回テニュアトラック制度シンポジウム「芸術作品と科学」
４．発表年 2019年

１．発表者名 田口かおり
２．発表標題 光学調査から見たゴッホーーポーラ美術館収蔵作品を中心に
３．学会等名 記念シンポジウム 展覧会「印象派、記憶への旅」（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 田口かおり
２．発表標題 イタリアの文化財レスキューと保存修復 ―1966 年フィレンツェ大洪水から考える「予防的修復」の意義と応用
３．学会等名 2022年度三田史学会大会シンポジウム 「自然災害と求められる文化財保護のあり方 ―特に大学組織の関与について―（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 田口かおり
２．発表標題 現代美術の保存修復を考える
３．学会等名 Global Conservation Platform（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 KAORI TAGUCHI
２．発表標題 Conservation and restoration of Contemporary Art
３．学会等名 Curatorial Education Program at Tokyo University of the Arts, Tokyo University of the Arts（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 田口かおり
２．発表標題 剥がし、移動し、保存すること
３．学会等名 のこす つなぐ よみがえる 小田原市民会館大ホール壁画の記憶展 vol.1 講演会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 田口かおり
２．発表標題 保存修復の射程：理論の成り立ちから現代美術への応用まで
３．学会等名 東北芸術工科大学文化財保存修復学科特別講義（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 田口かおり
２．発表標題 壁画を残し、つなぐために
３．学会等名 のこす つなぐ よみがえる 小田原市民会館大ホール壁画の記憶展 vol.2 講演会（招待講演）
４．発表年 2023年

〔図書〕　計5件

１．著者名 越川倫明（著,監修)ほか	４．発行年 2021年
２．出版社 東京富士美術館編 東京美術	５．総ページ数 192
３．書名 『レオナルド・ダ・ヴィンチ 失われた大壁画の記憶―《ターヴォラ・ドーリア》徹底研究』	

1．著者名 望月かおる(編集長)ほか	4．発行年 2021年
2．出版社 美術出版社	5．総ページ数 224
3．書名 美術手帖特集 アーカイヴの創造性	

1．著者名 岡田温司，武田宙也，田口かおり，中村史子ほか	4．発行年 2020年
2．出版社 this and that	5．総ページ数 80
3．書名 タイムライン ―時間に触れるためのいくつかの方法	

1．著者名 美学会編	4．発行年 2020年
2．出版社 丸善出版	5．総ページ数 735
3．書名 美学の辞典	

1．著者名 レイエス・ヒメネス、パトリシア・A・ファヴォロほか	4．発行年 2022年
2．出版社 ピカソ　青の時代をこえて	5．総ページ数 272
3．書名 青幻舎	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
第９回テニュアトラック制度シンポジウム「芸術作品と科学」	2019年～2019年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関